SR-03(2022)



frasyrを用いた 再生産関係の推定: 診断紹介編①

再生産関係モデルにおける推定パラメータの診断



動画製作者 漁業情報解析部 資源解析グループ 福井 眞

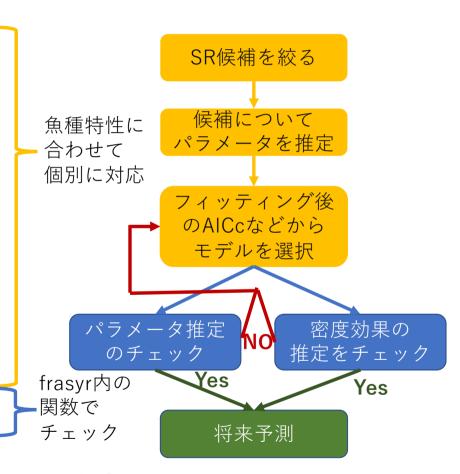
shinfukui@affrc.go.jp

SR-03(2022) frasyrを用いた再生産関係の推定;診断紹介編①

fukui_shin87@fra.go.jp

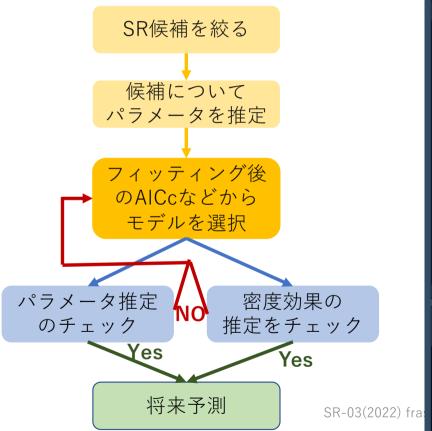
SR関係推定手順と念頭におくこと

- 先行研究などから再生産関係についての生物学的特性が既知か?
 - → BH/RI/HSのうち、 積極的に採択・不採択となるものは?
- 過去の加入量のトレンドで著しく パターンが変わっていないか?→レジームシフトの仮定が必要?
- 再生産曲線や自己相関の有無などの組み合わせで複数の候補となるSRについてパラメータの推定ののちAIC(c)で比較、モデルを選択
 - 選択したモデルの診断、推定結果は安定?
 - 推定した再生産曲線は密度効果が表れている?



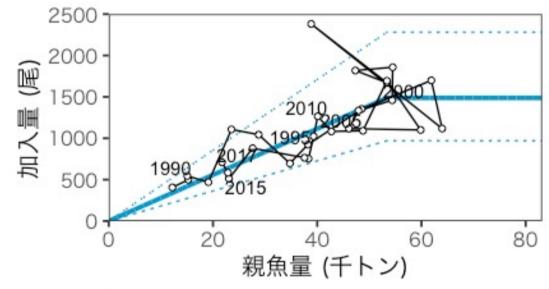
診断するSRモデルを絞る

再生産曲線や自己相関の有無などの組み合わせで複数の候補となるSRについてパラメータの推定ののちAIC(c)・BICで比較 ______



```
® SR−02.R
            B SR-03.R
 ← → | 📠 | 📄 🔲 Source on Save | 🥄 🎢 🗸 📗
   5、#AIC、AICcやBICを比較してフィットの良いモデルは何かを探る ----
     SRarglist <- expand.grid(SR=c("HS","BH","RI"),AR=c(0,1),out.AR=c(FALSE
      SRarglist <- SRarglist[-which(SRarglist$AR==0 & SRarglist$out.AR==TRUE
   8 resfitSRlist<-list()</pre>
   9 AIC <- AICc <- BIC <- c()
  10 for(i in 1:nrow(SRarglist)){
        resfitSRlist[[i]]<-fit.SR(SRdata_ex,SR=SRarglist$SR[i],AR=SRarglist$
       ,out.AR=SRarglist$out.AR[i])
  12
        AIC <- c(AIC, resfitSRlist[[i]]$AIC)
  13
        AICc <- c(AICc, resfitSRlist[[i]]$AICc)
  14
        BIC <- c(BIC,resfitSRlist[[i]]$BIC)</pre>
  15
  16 - 3
      SRlist <- cbind(SRarglist,AIC,AICc,BIC)</pre>
       # AIC.AICcやBICを比較してフィットの良いモデルは何かを探る ⇒
 Console
        Terminal
                  Background Jobs
 R 4.1.2 ~/FishStockManageTraining/ 
 > SRlist <- cbind(SRarglist,AIC,AICc,BIC)</pre>
 > SRlist
                                AICc
   SR AR out.AR
                       AIC
                                          BIC
1 HS 0 FALSE 9.870773 10.79385 14.07436
   BH 0 FALSE 10.267899 11.19098 14.47149
```

- 果たしてうまく推定できているのか?
 - 推定結果は安定?
 - 残差の分布に想定外の偏りはない?
- 密度効果は表現できているか?
 - パラメータ間相関は?
 - steepnessは?
- plot_SR関数のオプション plot_CIで予測区間 (デフォルトで90%) を表示



関数形: HS, 自己相関: 0, 最適化法L1, AICc: 14.08

• ここで紹介する手順はfrasyrのwikiを参照

https://github.com/ichimomo/frasyr/wiki/Diagnostics-for-Stock-Recruitment-Relationships (wikiはパッケージ最新状態を反映しているわけではないことに注意)

SR関係推定結果を吟味する関数

- 再生産関係推定のモデル診断の関数
 - check SRfit:推定値の収束の有無や最適解に達しているか ※③以外
 - check.SRdist:残差の分布
 - prof.likSR:プロファイル尤度
 - [calc.residAR: 残差の自己相関]
 - [autocor.plot:残差の自己相関のプロット]
 - boot.SR:ブートストラップ解析
 - jackknife.SR:ジャックナイフ解析
- 再生産関係の密度効果を調べる関数
 - check.SRfit③:推定値が密度効果が現れる範囲にあるか
 - corSR:パラメータ間相関

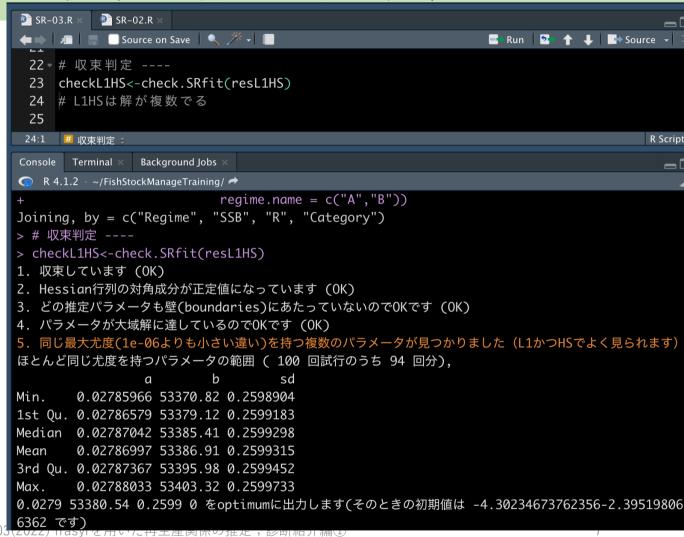
check.SRfit:推定値の収束の有無や大域最適か?

パラメータの最尤推定がうまくできているか?

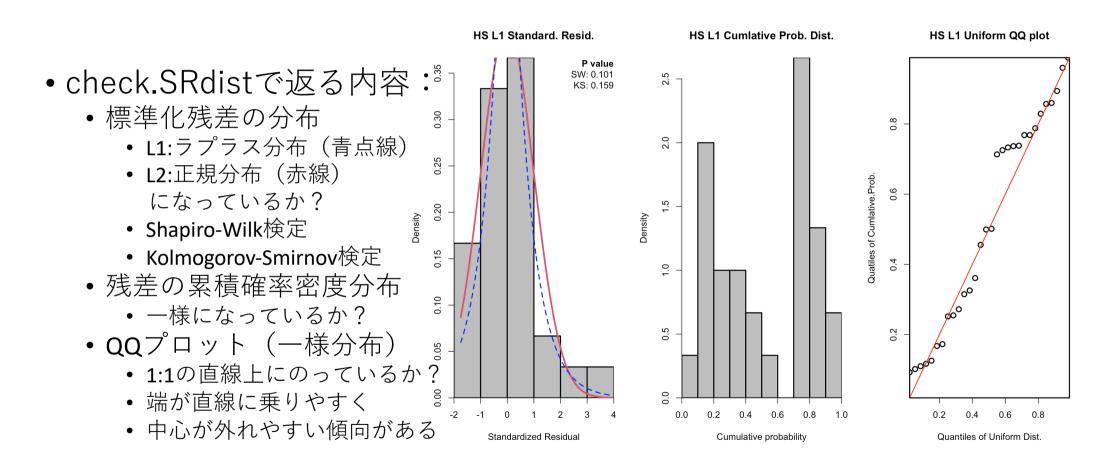
- check.SRfitでチェックされる内容:
 - ① 収束しているか (convergence)
 - ② ヘッセ行列 (Hessian) の対角成分が正定値 (positive definite) になって _ いるか
 - ③ 境界条件(HSの場合SSBの両端、それ以外の場合直線関係や極端に強い密度依存関係)に達しているか (←密度効果のチェックで後述)
 - ④ 対数尤度が大域解 (global optimum) に達しているか
 - ⑤ 大域的最適解をもつパラメータがひとつに決まるかどうか (④で大 域解が出られている場合のみ)

check.SRfit:推定値の収束の有無や大域最適か?

- check.SRfitでチェックされる内容:
 - ① 収束しているか (convergence)
 - ② ヘッセ行列 (Hessian) の対 角成分が正定値 (positive definite) になっているか
 - ③ 境界条件(HSの場合SSBの両端、それ以外 の場合直線関係や極端に強い密度依存関 係)に達しているか (←密度効果のチェッ クで後述)
 - ④ 対数尤度が大域解 (global optimum) に達しているか
 - ⑤ 大域的最適解をもつパラメータがひとつに決まるかどうか(4)で大域解が出られている場合のみ)
- SR="HS",method="L1"では⑤ で引っかかることが多い。
 - 複数の推定値の中央値が戻り値オブジェクトoptimumに 格納されるのでそれを使う



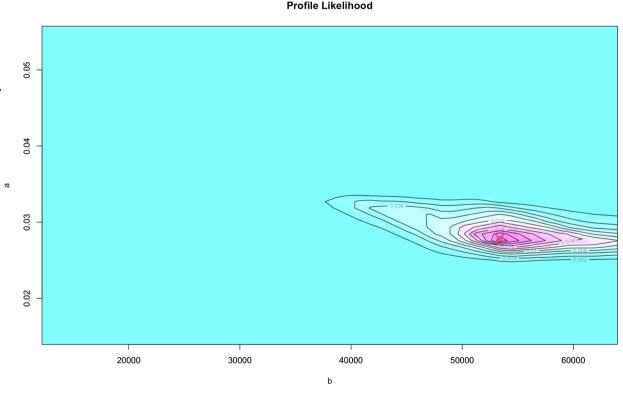
check.SRdist:残差の分布



prof.likSR: プロファイル尤度

• prof.likSRで示されるもの: 推定されたパラメータ近辺で 少しパラメータを変更させた 時の尤度の差

局所解に落ちているか、 $a \ge b$ の相関が強すぎないか、などの様子を可視化



calc.residAR: 残差の自己相関

- 残差の自己相関
 - AR=1, outAR=Tとしたときの自己 相関係数を計算

・ 出力される\$parsはfit.SRで AR=1,outAR=Tとしたものと同値 R4.1.2: ~/FishStockManageTraining/ **プ**

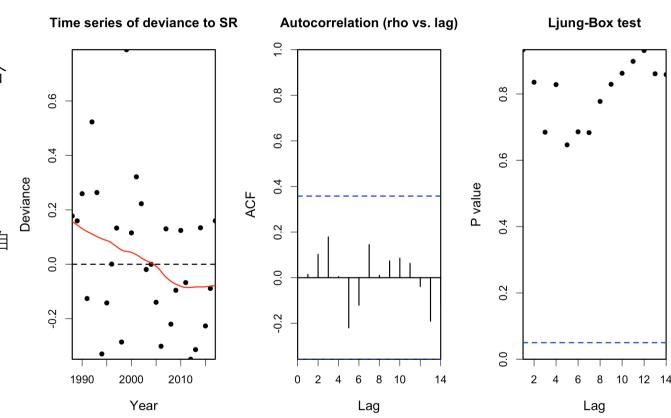
• AICなども出力

```
® SR−03.R
     ■ Source on Save
 36 prof.likSR(resL1HS)
 37 prof.likSR(resL1HSchecked)
 38 # 図を保存する場合
 39 prof.likSR(resL1HS, output = TRUE, filename = "ResidDistCheck_L1HS")
 41 prof.likSR(resL2RIARout1)
 42 prof.likSR(resL2BHARout0)
 43
 44 # 残差の自己相関のチェック ----
 45 outer1HS = calc.residAR(resL1HS, output = TRUE, filename = "L1HSresidARouter"
 46 outer1HS
 47
     # 残差の自己相関をプロット
    autocor.plot(resL1HS) #デフォルトはuse.resid = 1
 50 autocor.plot(resL1HS, output = TRUE, filename = "L1HSdevianceAR")
 48:1 # 残差の自己相関のチェック
Console Terminal
               Background Jobs

  R 4.1.2 → ~/FishStockManageTraining/ 
  →
> outer1HS
$pars
1 0.02786598 53372.54 0.259883 0.02080394
$arima0
Call:
arima(x = deviance, order = c(0, 0, 0), include.mean = FALSE, method = "ML")
sigma^2 estimated as 0.06757: log likelihood = -2.15, aic = 6.3
$arima1
```

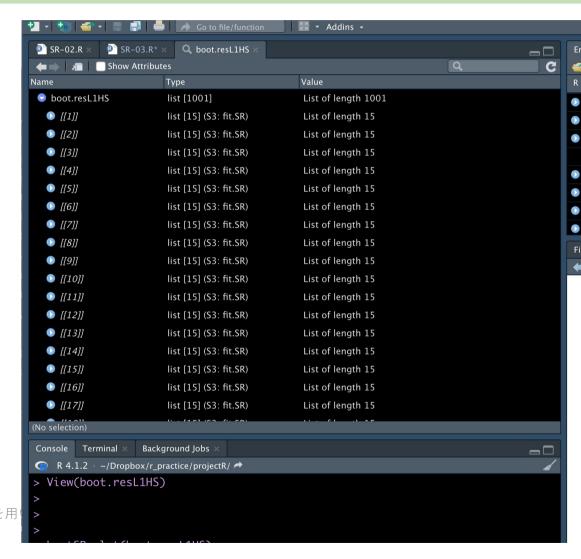
autocor.plot:残差の自己相関のプロット

- 再生産関係との残差の時系列
 - 赤い線は平滑化された曲線
- ラグを**1,2,3**....年と増やした場合 の自己相関係数
 - 青い線は95%信頼区間
- Ljung-Box検定におけるp値帰無仮説;ラグが1~mまでの全ての自己相関が0である
 - 対立仮説;ラグ1から mまでの自己相関のうち、少なくとも一つが0でない
 - 赤点で表示される箇所が有意
- output=Tで図を保存
 - autocor.plot(resL1HS, output = TRUE, filename = "devianceAR")

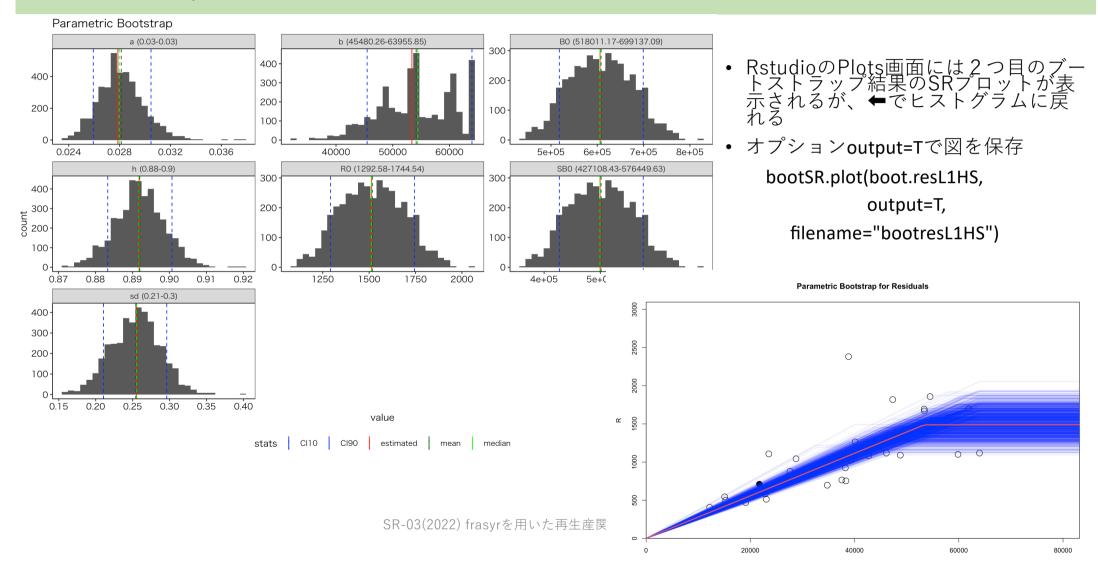


boot.SR: ブートストラップ解析

- SR関係パラメータの推定誤差 から生じる推定区間を可視化
- 3 種類のブートストラップを実装
 - 残差のパラメトリックブートストラップ(オプションmethod="p")
 - 残差のノンパラメトリックブートストラップ(method="n")
 - データブートストラップ (method="d")
- 回数nは500回や1000回
- 自己相関を推定した場合はpも
- fit.SRの引数にbio_parを入れてスティープネスを計算した場合、SBO、RO、BO、hの図も出力
- いずれも図示するにはbootSR.plot を使用 SR-03(2022) frasyrを用り

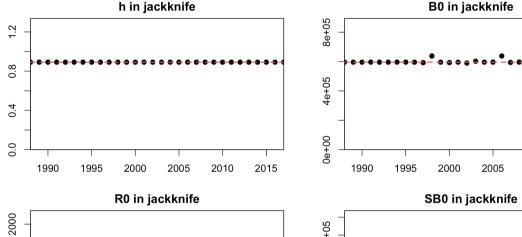


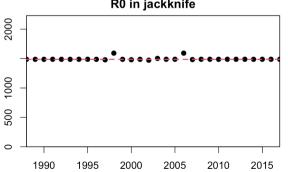
bootSR.plot

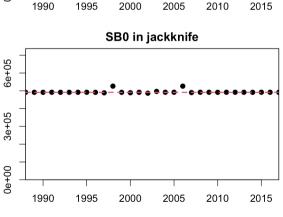


jackknife.SR:ジャックナイフ解析

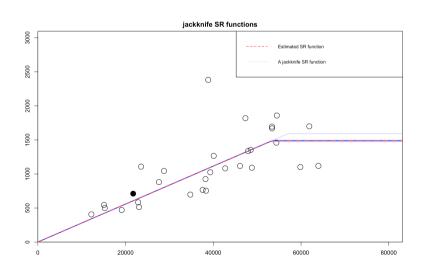
- ・データを一点ずつ除いて再推定し、各データが与える影響を評価
- 自己相関ありのジャックナイフが有効なのは同時推定の場合のみ







オプションoutput=Tで図を保存
jackL1HS = jackknife.SR(resL1HS,
output = TRUE,
filename="jackresL1HS")



SRモデルのパラメータ推定診断



• frasyrを使ったSR関係推定のモデル診断について、 推定パラメータに関する診断内容の紹介は以上です

お疲れ様でした!

